



「ポスト2015 を効果的に実施するために」

BEYOND MDGS JAPANシンポジウム シリーズ第5弾

「ポストMDGSの今が分かる！」
2014年10月4日（土）航空会館

森 秀行

（公財）地球環境戦略研究機関(IGES) 所長

MDGS からSDGSへ

<ミレニアム開発目標 (MDGs) >

2015

<持続可能な開発目標 (SDGs) >

特徴

- ✓途上国対象型
- ✓貧困の撲滅が最重要
- ✓少数の専門家によるトップダウン型で策定
- ✓環境・持続可能性目標(MDG7)は単独で一つにまとめられ、弱く、定量的目標ではない
- ✓他のMDGsに比べ森林問題や生物多様性、CO2 排出等の課題に対する進捗は芳しくなかったとの評価
- ✓実施手段(資金、能力開発、技術移転等)は弱い

特徴

- ✓全ての国が対象
- ✓貧困の撲滅+持続可能性が重要
- ✓策定プロセスに多くのステークホルダー(国、国際機関、市民社会等)が参画
- ✓新しい対象課題・分野、環境目標が数多く提案されている(生物多様性、森林、海洋、気候変動、エネルギー、都市、持続可能な生産と消費等)
- ✓実施手段の目標が提案されているが、共通だが差異のある責任(CBDR)が阻害要因となるか?
- ✓2015年以降の**開発目標と統合**される予定

MDG 7 : 環境の持続可能性確保

- A: 持続可能な開発の原則を各国の政策やプログラムに反映させ、環境資源の喪失を阻止し、回復を図る。
- B: 生物多様性の損失を抑え、2010年までに、損失率の大幅な引き下げを達成する。
- C: 2015年までに、安全な飲料水と基礎的な衛生施設を持続可能な形で利用できない人々の割合を半減させる。
- D: 2020年までに、少なくとも1億人のスラム居住者の生活を改善する。

SDG案 (2014年7月 OWG成果文書より抜粋)

- SDG 7.すべての人々の、安価かつ持続可能で信頼できる現代的なエネルギーサービスへのアクセスの確保
- SDG 12.持続可能な生産消費形態の促進
- SDG 13.気候変動に対応するためのあらゆるレベルにおける行動の促進
- SDG 14.海洋資源および海洋の、保全および持続可能な利用の実現
- SDG 15.陸域生態系の保護および回復、あらゆる生物多様性の損失の阻止

持続可能な開発の3つの側面(経済、社会、環境)、分野間のインターリンクエージ(関係性)を考慮した統合的な対応が必要

SDGS 17の目標案（OWG成果文書より抜粋）

- 目標1 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
- 目標2 飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
- 目標3 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
- 目標4 すべての人々への、包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 目標5 ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女子のエンパワーメントを行う
- 目標6 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
- 目標7 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な現代的エネルギーへのアクセスを確保する
- 目標8 包括的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全かつ生産的な雇用とディーセント・ワーク（適切な雇用）を促進する
- 目標9 レジリエントなインフラ構築、包括的かつ持続可能な産業化の促進、およびイノベーションの拡大を図る
- 目標10 各国内および各国間の不平等を是正する
- 目標11 包括的で安全かつレジリエントで持続可能な都市および人間居住を実現する
- 目標12 持続可能な生産消費形態を確保する
- 目標13 気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる
- 目標14 持続可能な開発のために海洋資源を保全し、持続的に利用する
- 目標15 陸域生態系の保護・回復・持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・防止および生物多様性の損失の阻止を促進する
- 目標16 持続可能な開発のための平和で包括的な社会の促進、すべての人々への司法へのアクセス提供、およびあらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包括的な制度の構築を図る
- 目標17 持続可能な開発のための実施手段の強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

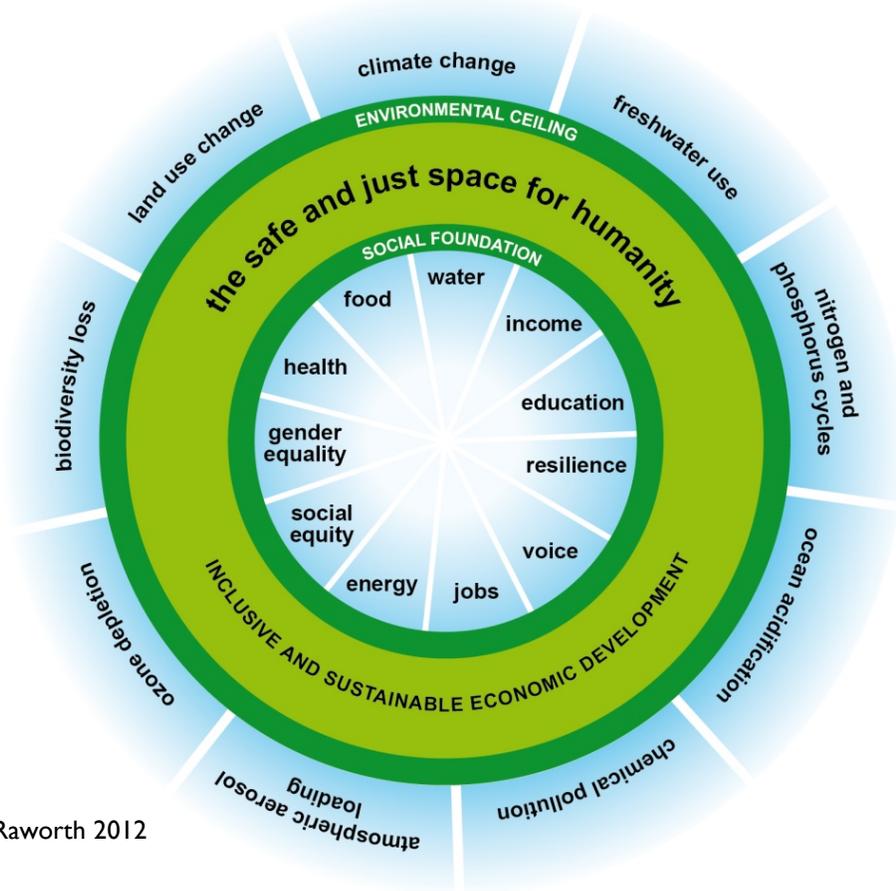
OWG目標案の評価

- 貧困削減を中核としながらもMDGsと比して経済・社会・環境をより良く統合。
- 気候変動緩和プレッジ達成の呼びかけ、UNFCCCの目的を再確認。その他過去の国際合意との一貫性を確認。
- インターリンクージュに配慮（水目標における森林、生態系の保護・回復など）。
- 「One size fits all」ではなく、国レベルでの多様な持続可能な発展へのアプローチ、ビジョン等を認識。
- 実施モニタリングのための、主要ステークホルダー毎に異なるデータ改善の必要性を主張。
- 多くの目標は測定が難しく、測定可能な目標・ターゲットに落とし込む必要あり。「12.2 2030年までに、天然資源の持続可能な管理および効率的な利用を達成」など。
- 持続可能な消費と生産(SCP)の一環として資源効率や3Rなどが取り上げられている。

実施につなげるには測定可能な目標・ターゲットと信頼できるデータが不可欠

既存の評価：OXFAMの例（RAWORTH, 2014年8月）

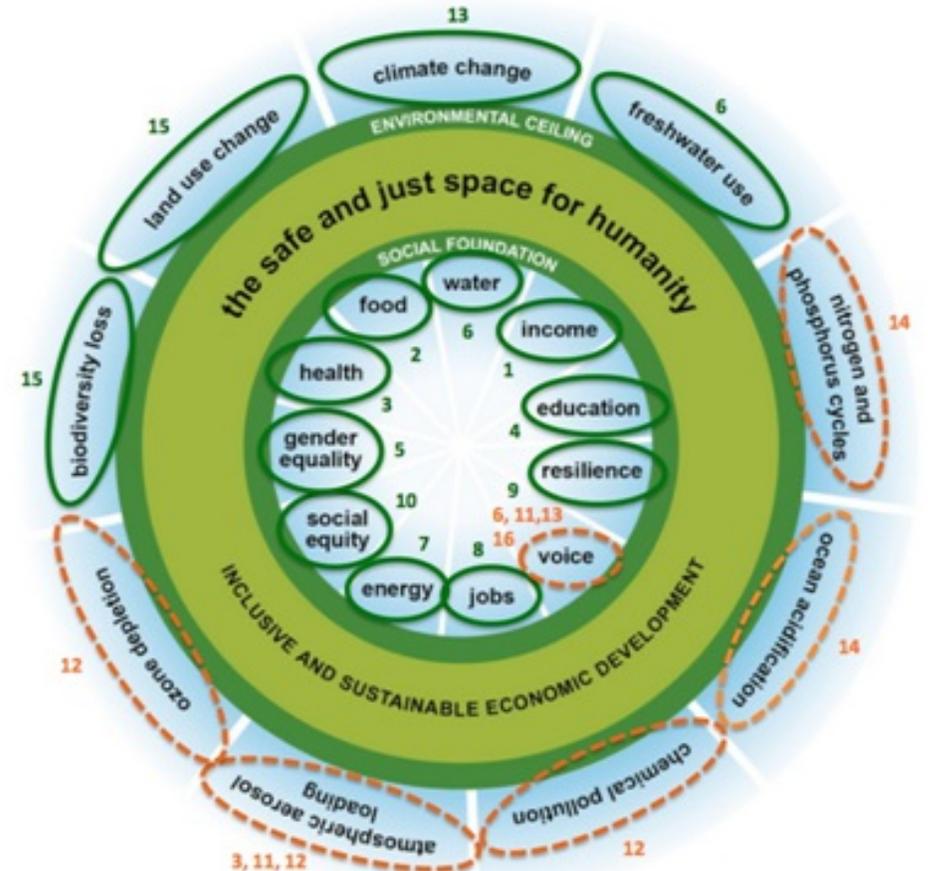
持続可能な開発のドーナツ型フレームワーク



Raworth 2012

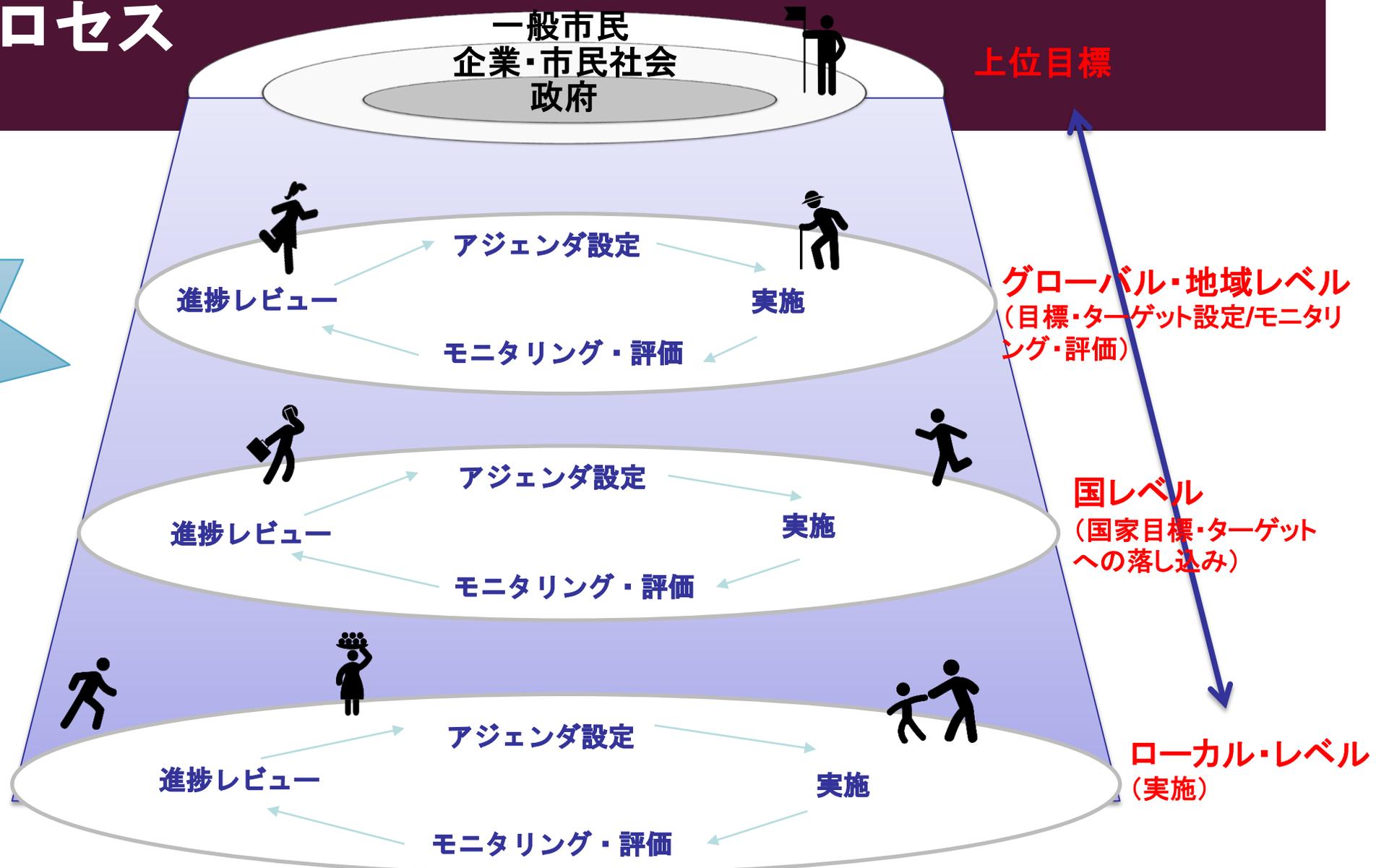


SDGsの既存提案との比較



Raworth 2014

SDGS実施プロセス



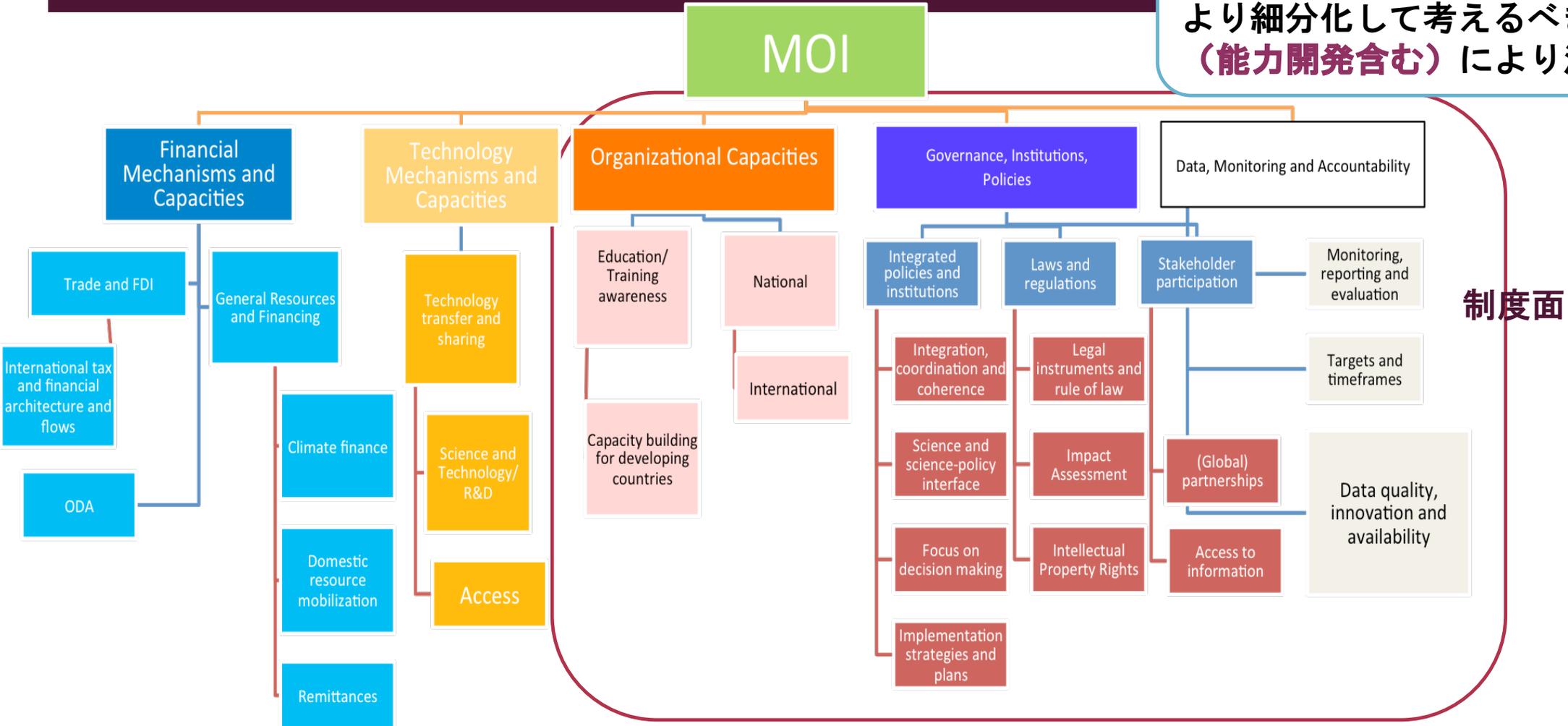
	Agend a 21	JPOI	Rio+20	HLP	SDSN	SA Non- paper	UN NGLS	UN TST	Dodds	OWG (13)
Mechanisms/Capacity (Finance)										
ODA	✓		✓		✓			✓	✓	✓
“Resource/Financing”			✓		✓			✓		✓
Trade/FDI		✓	✓		✓					✓
Reform international/financial architecture										
Reference to climate finance										
Remittances										
Domestic resource mobilization										
Mechanisms/Capacity (Technology)										
Transfer/sharing	✓	✓	✓		✓					✓
Access										✓
Science & Technology and R&D	✓	✓								
Organizational Capacity										
Capacities			✓							✓
National	✓		✓							
International	✓	✓	✓							
Education/training awareness	✓	✓	✓							✓
Capacity building for developing countries		✓	✓							✓
Governance/Institutions/Policies										
Integrated policies and institutions										
- Integration and coherence								✓		✓
- Coordination		✓				✓				
- Focus on decision making	✓	✓								
- Implementation strategies/plans						✓				
Laws and regulations										
- Legal instruments and rule of law	✓		✓							
- Environmental impact assessment (EIA)		✓				✓				
- Intellectual property rights (IPR)										✓
Stakeholder participation										
- Stakeholder involvement and (global) partnerships				✓		✓	✓	✓	✓	✓
- Access to information and justice		✓								
Data and Monitoring										
Monitoring and Evaluation (M&E)					✓	✓			✓	
Targets and timeframes						✓				
Data quality, innovation and availability		✓		✓				✓		✓

多くの実施手段(MOI)は、
下記の5部門に関する。

- 資金
- 技術
- 能力開発
- ガバナンス・制度・政策
- データとモニタリング

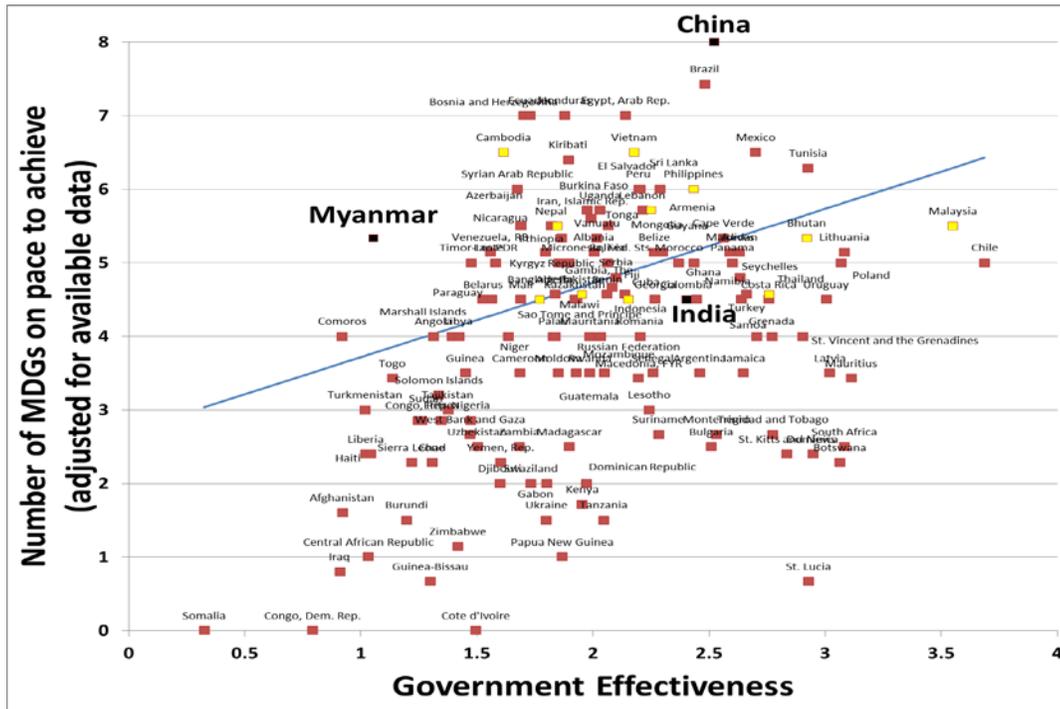
実施手段の分類化（IGES, 2014年10月（予定））

従来の交渉では、資金・技術・能力開発の3分類が一般的だが、SDGsのMOIはより細分化して考えるべき。**制度面（能力開発含む）**により注目すべき。



MDGS実施におけるガバナンスの影響度（IGES, 2014年10月（予定））

- MDGs8の教訓から、**ガバナンス目標・実施メカニズムに関する再検討・改善が必要**。
- 回帰分析では、**政府の有効性の向上（Government Effectiveness）と法の支配（Rule of Law）がMDGsの達成度をより促すことを示唆**。
- **アジア諸国**では、より政府の有効性の向上がMDGsの達成に関係することを示唆。



<データ：141ヶ国>

- World Bank's World Governance Indicators (WGI) 2013
- Center for Global Development (CGD)'s MDG Progress Index 2011
- World Bank's GDP per capita dataset 2012

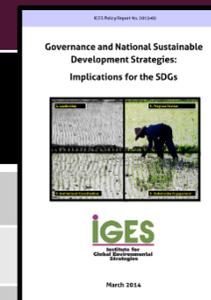
<ガバナンス指標とMDGs達成度の因果関係>

	Estimate	Std. Error	Pr(> t)
(Intercept)	3.52530	1.23820	0.00515 **
Voice	-0.84254	0.29043	0.00439 **
Stability	0.31502	0.24949	0.20903
Effectiveness	0.41996	0.68069	0.53837
Regulatory	0.30904	0.44967	0.49317
Law	1.40831	0.63078	0.02732 *
Corruption	-1.15502	0.59187	0.05320.
lnGDP	-0.04909	0.16465	0.76607
Asia	0.97285	0.42989	0.02533 *
Africa	-0.55762	0.37765	0.14227
Latin America	0.72836	0.42107	0.08610.

持続可能な開発に関する国家戦略（NSDS）に関する分析（IGES, 2014年3月）

策定・実施の進捗に関する優良事例をアジア5カ国（インドネシア、韓国、ブータン、フィリピン、タイ）にて比較調査

Country	Leadership and vision	Institutional coordination	Stakeholder Engagement	Progress review
Indonesia	XX	XX		
Korea	XX	XX	X	
Bhutan	XX	XX		X
Philippines	XX	XX	XX	
Thailand	XXX	XXX		
Overall Assessment	Absence of one or more key elements governance in all countries' strategies			



- 政府の有効性を向上し実施を強化するためには、実施サイクルの4つの要素（リーダーシップとビジョン、組織間調整の強化、ステークホルダーの参加、進捗レビュー）を強化していくことが必要。
- 国レベルでの実施手段を考慮する際に、ステークホルダーの参加とモニタリング・レビューが特に重要になる。

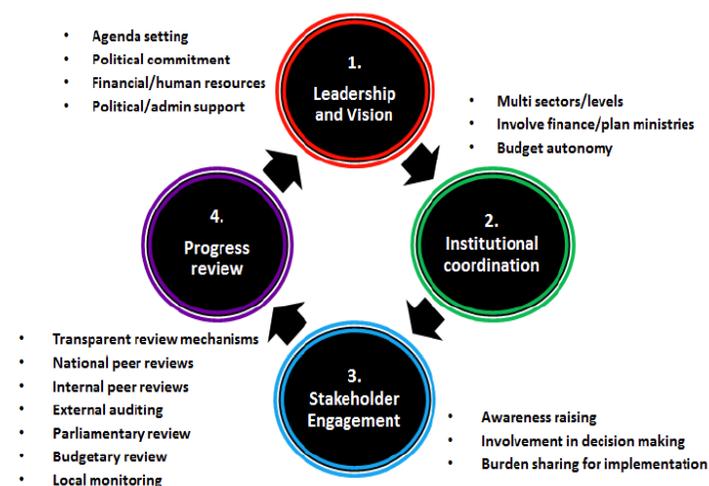
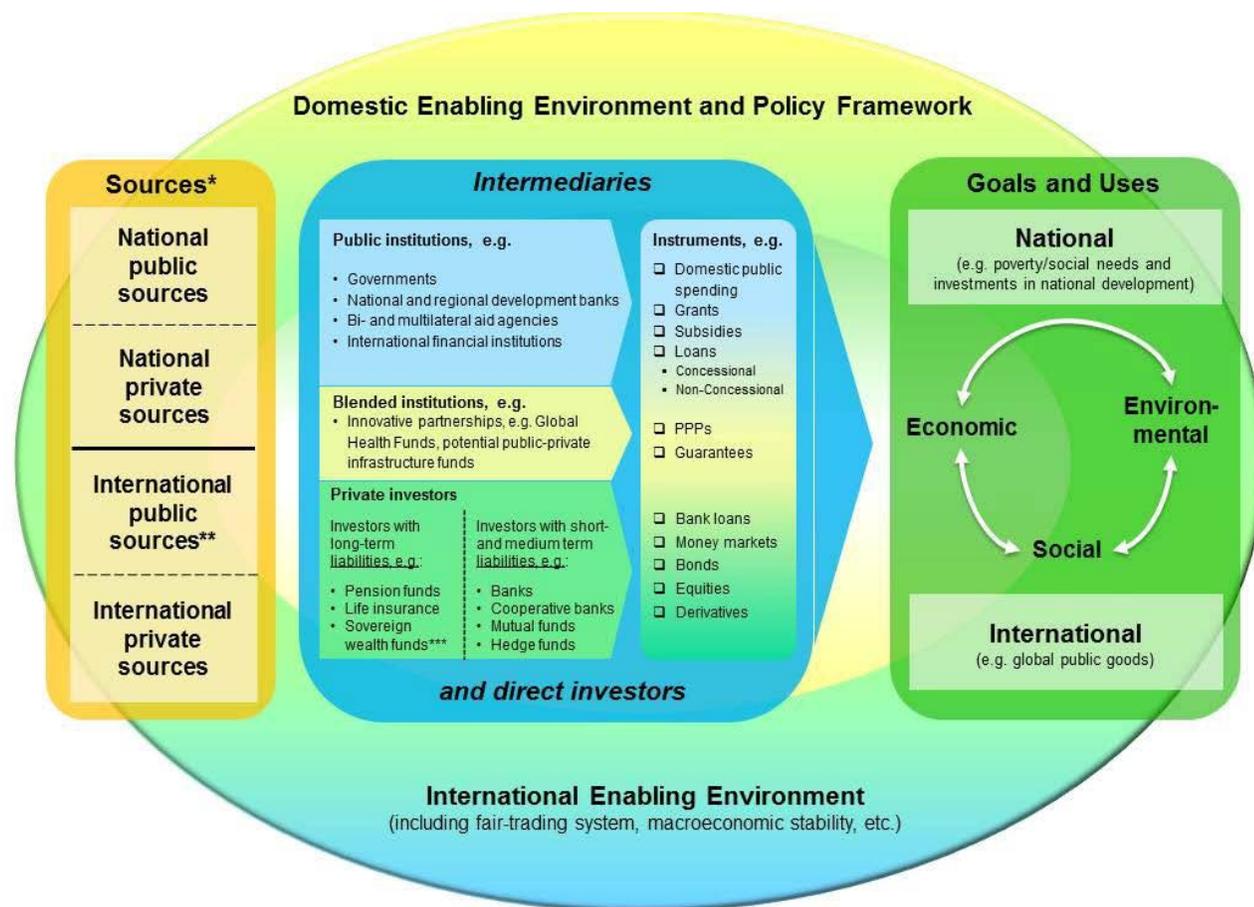


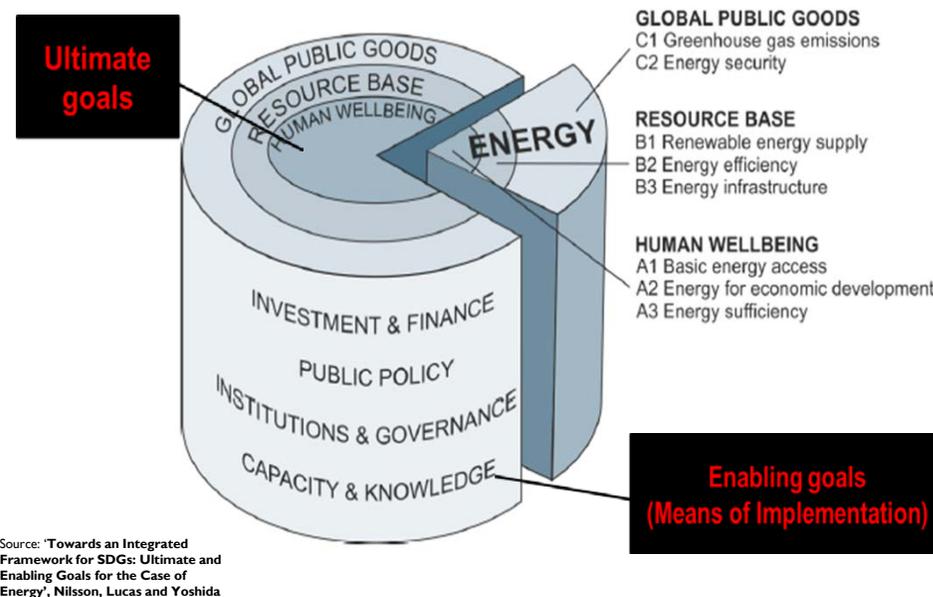
Figure 1 Policy Cycle Framework

持続可能な開発資金専門家委員会レポート

- 国の発展は自国の責任であり、国際的支援は補完的役割と位置づけ。
- 効率的な組織（effective institutions）と政策、良い統治（good governance）が資金の有効利用、動員に必要。
- ODAは最貧国にとって極めて重要。
- 持続可能な開発のクライテリア（3つの柱等）が資金・投資決定にも反映されるべき。



ローカル・レベル：エネルギー事例（IGES, 2014年10月（予定））



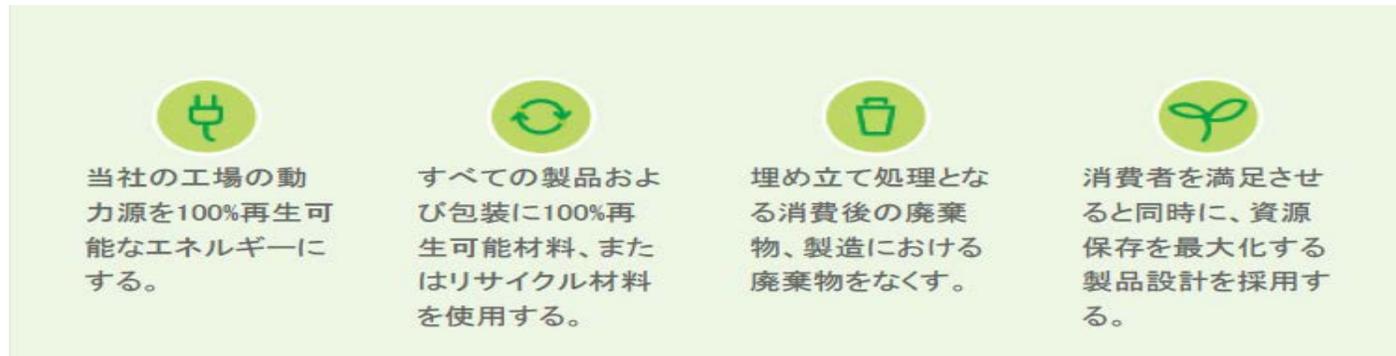
実施のために重要な要素 (Enabling Factors)

- 国際的資金援助
- 参加型計画策定と資金
- 法と規則
- 政府支援
- 明確な目標設定
- 地域自治
- リーダーシップ
- 情報共有

- エネルギー効率の改善と再生可能エネルギーの導入のベストプラクティスから学んだ教訓の分析と発展途上国における地域社会への適用の可能性の分析。
- 地域レベルではMDGsの影響が少なく、**開発アジェンダに関する国レベルから地域レベルへの更なるアウトリーチ**が不可欠。
- どのようなゴール/ターゲット/指標がエネルギー効率と再生可能エネルギー推進のためのSDGs/ポスト2015開発アジェンダにとって有用か？実施手段を統合した目標構造が適応可能か？

マルチステークホルダーの取り組み 日用品メーカー大手のP&G

四つの長期的な持続可能性を実現するビジョンを設定



その下で具体的な短期目標

- “2015年までにリサイクル以外の木材繊維は100%第三者認証を得たものを調達する”
- **結果:** 2013年には、第三者認証済みの比率を、97%にまで引き上げた
- “2020年までに工場での再生エネルギー使用率を30%に引き上げる”
- **結果:** 2013年度時点で約7.5%まで実現。

企業や市民グループが自主的に持続可能性目標を設定し、実施を目指す「有志連合 (Coalitions of the Willing)」がここ最近頼りに増えてきている。SDGs・ポスト2015DAは、この流れを活発化出来るか？

The logo for IGES (Institute for Global Environmental Strategies) features the letters 'iGES' in a bold, green, sans-serif font. The lowercase 'i' has a small dot above it. The letters are underlined with a thin green line.

ご清聴ありがとうございました。

公益財団法人 地球環境戦略研究機関 (IGES)

Institute for Global Environmental Strategies

〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11

Tel : 046-855-3700 Fax : 046-855-3709